

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 52 週～2018 (平成 30) 年 第 1 週 (12 月 25 日～1 月 7 日)

今週のコメント

～インフルエンザ～ 手洗い、咳エチケット、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

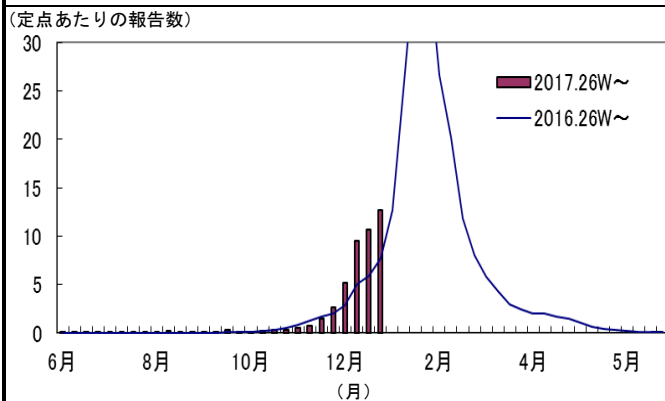
「インフルエンザ 注意報レベルを超える 今後の動向に注意」

2017 年第 52 週と 2018 年第 1 週をあわせて報告する。

2018 年第 1 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 1,131 例であった。小児科定点疾患の報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、咽頭結膜熱の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 2.9、0.9、0.8、0.4、0.2 である。

インフルエンザの第 1 週の報告数は 3,873 例であり、定点あたり報告数は年末年始休暇の影響にもかかわらず第 51 週よりも増加し、第 52 週は 10.7、第 1 週は 12.7 と 2 週連続して注意報レベル基準値である 10.0 を上回った。第 1 週では大阪市西部 52.3、大阪市北部 25.2、北河内 13.6、南河内 13.2 と 4 ブロックで 10.0 を超えている。休暇が終了する第 2 週以降、インフルエンザは急増する可能性が高く、今後の動向に注意が必要である。

インフルエンザ



感染性胃腸炎

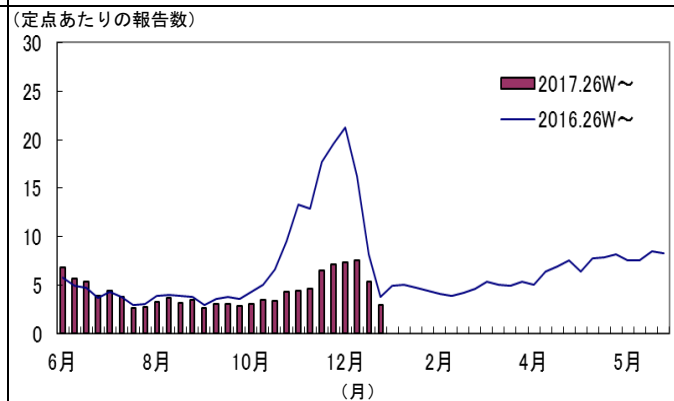


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 1 週 1 月 1 日-1 月 7 日)

第 1 週 の順位	第 52 週 の順位	感染症	2018 年 第 1 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017 年 第 1 週の 定点あたり 報告数	2018 年 第 1 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.9	46%減	3.8	1 歳_19%
2	3	RS ウイルス感染症	0.9	10%減	0.8	1 歳未満_52%
3	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.8	48%減	0.8	10 歳から 14 歳_17%
4	4	水痘	0.4	1%増	0.6	8 歳_16% 10 歳から 14 歳_16%
5	5	流行性角結膜炎	0.2	45%減	0.3	20 歳以上_82%
参考		インフルエンザ (インフル ンザ定点報告疾患)	12.7	18%増	7.8	20 歳以上_41%

第1週のコメント

～侵襲性肺炎球菌感染症～ 2017年の累積報告数は、過去4年間で最多

全数把握感染症

侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は、感染症法上、肺炎球菌（*Streptococcus pneumoniae*）による感染症のうち、この菌が髄液又は血液等の無菌部位から検出された感染症のことをいう。髄膜炎、菌血症を伴う肺炎、敗血症などが特に問題とされており、小児および高齢者を中心に患者報告がある。抗菌薬が有効であるが、近年、薬剤耐性菌も多く報告されている。侵襲性肺炎球菌感染症の予防にはワクチンの接種が有効である。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

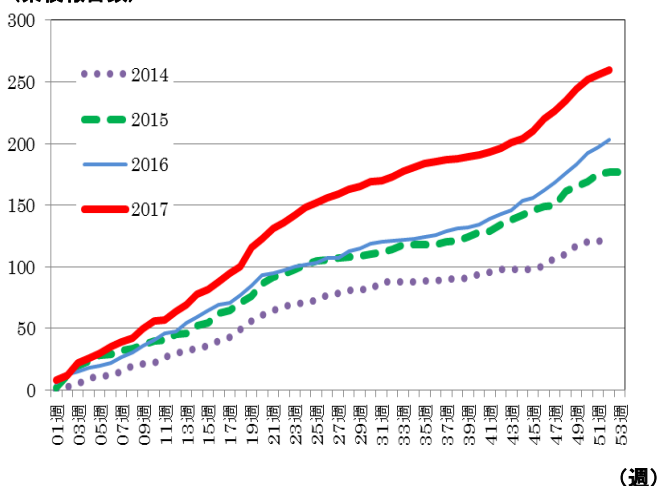


表2. 大阪府全数報告数（2018(平成30)年 第1週 1月1日-1月7日）

*）注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3類感染症	報告はありません
4類感染症	報告はありません
5類感染症 (麻しん、風しんは除く)	侵襲性肺炎球菌感染症 2名 （豊能ブロック 1名、南河内ブロック 1名、府内累積報告数 2名） 梅毒 2名 （中河内ブロック 2名、府内累積報告数 2名）
結核 (2017年11月分)	結核 新登録患者数：166名 （内 肺・喀痰塗抹陽性 73名） （府内累積報告数 1,741名、内 肺・喀痰塗抹陽性 727名）
麻しん、風しん	報告はありません

(2018年1月9日 集計分)